

地域の想いを受継ぐ



右から担い手農家4名と農業研修生

もとのうじゅう 朝日町元能中地区

朝日町は、気候の寒暖差が大きく高品質な果樹の栽培に好適とされ、「リンゴ」をはじめとする農産物の栽培に適した肥沃な土地が広がっている。

そんな果樹栽培の盛んな朝日町元能中地区もとのかんちゅうでは特産品「リンゴ」という強みはあるが、農業用施設の老朽化が進み、離農や高齢化による耕作放棄地が拡大するなど危機感を抱いていた。「このままでは、次の世代に地域の農地を受継いでいけなくなるのでは」との思いから、先行きの見えない地域農業を何とか打開するため、地区代表者を中心には場整備の事業化に向けて話し合いを繰り返してきた。

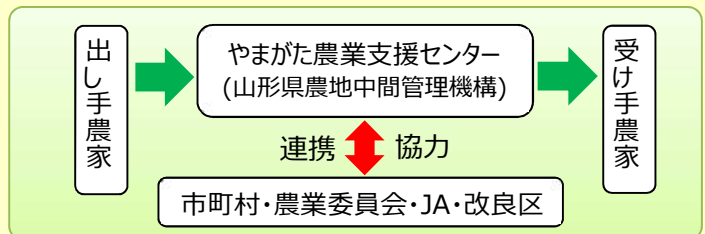
話し合いの結果、農地中間管理事業を活用した農地整備を実施し、①果樹等の高収益作物の栽培に適した新たな農地利用と、②担い手農家へ農地を集約し効率の良い作業を、目指すこととなった。地域の農地を持続的に発展させる、農地整備事業が平成31年度からスタートした。地区内の全農地7.4haを借り受け、25名の貸し手農家の農地を、4名の担い手農家へと集約し、「メ・果樹ともに営農し易いほ場整備を行い、1年で工事が完了した。今年は工事後、初のコメ収穫となり、実りの秋を迎えている。

リンゴ農家の海野さんは「4年後にはリンゴを皆さんの食卓へお届けできます。そのまま食べてリンゴ本来のおいしさを味わって欲しい」と、力強く語ってくれた。

農地中間管理事業とは???

A. 公的機関である農地中間管理機構が農地を貸したい農家から農地を借り受け、農業経営の規模拡大や効率化を図りたい担い手等の農家へ貸し付ける制度です。

お問い合わせ
 (公財)やまがた農業支援センター
 (山形県農地中間管理機構)
 TEL 023-631-0697



…出し手の気持ち…

来年から田んぼ作る人いねぐなんなよ～
作ってける人いねがや～

…受け手の気持ち…

大型機械導入して省力化したい！

農道無くて、隣の田んぼ渡って
いがねど、おらいの田んぼさ
行かんねなよ～

耕作放棄地の草刈りどうするや～

果樹畑増やしてもうがりたい！

Before

どのような営農を目指していますか

ほ場整備のおかげで作業効率が格段に上がり、今年の目標収量を見込めそう。今後は「つや姫」も栽培したい。



伊藤正博さん



地区で話し合いの様子



今春植えた「りんごの苗木」(9月初旬)



海野洋一さん

品種は「ふじ」「シナノスイート」「つがる」「昴林」「高德」を栽培し、10年後には収穫量2～3tが見込まれます。りんご以外に、「すもも」等に挑戦する人もでてきています。

After

出し手と受け手の
想いをカタチに